

対馬未来フォーラム 2025

ポスター発表表彰



主 催:対馬市

共 催:一般社団法人ブルーオーシャン・イニシアチブ

特別協賛:サラヤ株式会社、レンゴー株式会社



BLUE OCEAN
INITIATIVE

いのちをつなぐ

SARAYA



対馬未来フォーラム 2025 のポスター発表大会では、対馬に関する特に優れた研究・実践活動を称え、「サステナブルアイランド」の実現に向けた取り組みのさらなる深化・発展へつなげることを目的に、当日会場参加者の投票により市長賞『あなたが選ぶポスター賞！』を選定しました。

また、共催者である一般社団法人ブルーオーシャン・イニシアチブによる『ブルーオーシャン・イニシアチブ賞』、特別協賛企業であるサラヤ株式会社とレンゴー株式会社による『企業賞』の選定も実施しました。

各賞の受賞者は以下の一覧表のとおりです。受賞、誠におめでとうございます。今後もさらに研究・実践活動を進められ、持続可能な社会の実現に寄与していただくことを期待しています。

対馬未来フォーラム 2025 ポスター発表受賞者一覧

表彰	No.	タイトル	発表代表者	発表者所属	
市長賞	最優秀賞	15	森であそぼう！！親子で原木しいたけ栽培体験で町づくり	村岡幸代	対馬グローバル大学 しまづくりゼミ修了生
		62	拾われなかったどんぐりは島の資源になれるのか～未活用食材の活用と食料自給率向上への可能性～	商業科3年生	長崎県立対馬高等学校
	優秀賞	1	ウミアメンボってどんな虫？～浅茅湾の沿岸生態系の象徴種として～	朝鍋 遥	東京大学大学院 総合文化研究科
	奨励賞	50	高校生からはじまる海の未来への願い	商業科3年生	長崎県立対馬高等学校
	企画賞	27	文化芸術による長崎県離島の子ども達育成支援事業	松井旦壽	対馬ほほえみ会
		48	藻場増殖礁を核とした対馬市での藻場造成 豊かな森が豊かな海をつくる ヤマネコの住む森づくり	二川敏明*	住友大阪セメント(株)・ (株)SNC*
	努力賞	61	干し芋でつなぐ段々畑の未来	商業科3年生	長崎県立対馬高等学校
21		「市民」が考える地域の持続可能性～仁位地区地域づくり計画から	永田憲司	(株)十八親和銀行 豊玉支店	
ブルーオーシャン・イニシアチブ賞	57	地域資源を活用した藻場再生の取り組み	遠藤 京	オールサム(有)	
サラヤ賞	50	高校生からはじまる海の未来への願い	商業科3年生	長崎県立対馬高等学校	

レンゴー賞	48	藻場増殖礁を核とした対馬市での藻場造成 豊かな森が豊かな海をつくる ヤマネコの住む森づくり	二川敏明*	住友大阪セメント(株)・ (株)SNC*
-------	----	--	-------	-------------------------

【選考方法】

<市長賞>

- ・ 対馬未来フォーラム 2025 会場参加者 1 人につき 1 枚の「あなたが選ぶポスター賞」投票用紙を受付で配布。参加者は、最優秀賞、優秀賞、奨励賞、企画賞、努力賞の各賞にふさわしいと考えるポスター番号をそれぞれ記入し、受付の投票箱に投票。総投票数は 131 票であった
- ・ 投票用紙の各賞の欄に記載された発表番号の得票数に各賞の得点(10 点、8点、6点、4点、2点)を掛けて点数化し、得点の高い方から最優秀賞(1 名)、優秀賞(1 名)、奨励賞(1 名)、企画賞(1 名)、努力賞(若干名)の順で選出。入賞者は総得票点数 120 点以上とし、同点の場合は各賞同列とした

<ブルーオーシャン・イニシアチブ賞>

- ・ 対馬未来フォーラム 2025 に参加したブルーオーシャン・イニシアチブの理事及び事務局の合議により選出した

<サラヤ賞>

- ・ 対馬未来フォーラム 2025 に参加したサラヤ株式会社の審査委員がポスター発表を見て回った結果を持ち帰り、社内合議の上、選出した

<レンゴー賞>

- ・ 対馬未来フォーラム 2025 に参加したレンゴー株式会社の審査委員がポスター発表を見て回った結果を持ち帰り、社内合議の上、選出した

【受賞ポスターの内容】

表彰		タイトル	発表内容	ポスター
市長賞	最優秀賞	森であそぼう！！親子で原木しいたけ栽培体験で町づくり	対馬市内の親子6家族(約18人)が、オーナーとなり原木がびっしり並んだふかふかのホダ場で、3月の椎茸の駒打ちから秋の椎茸ちぎり、BBQ、手作りブランコ遊び、山や川遊びを4回にわたって続けてきた。この活動を通して、親子の繋がりやオーナー家族同士の交流が図られた。又、対馬の特産品である「原木しいたけ」への理解・興味も深まった。何より、指導をする生産者(高齢者)の生きがい作りに繋がった。	リンク

	拾われなかったどんぐりは島の資源になれるのか～未活用食材の活用と食料自給率向上への可能性～	未活用資源である「どんぐり」の歴史や対馬との関わりを学び、試行錯誤をしながら商品開発に取り組んだ成果を発表します。作ったコーヒーやクッキー、ガトーショコラはどれも絶品です！より多くの人々に「どんぐり」の魅力を感じていただき、季節の食材の一つとしての復活を目指します。	リンク
優秀賞	ウミアメンボってどんな虫？～浅茅湾の沿岸生態系の象徴種として～	ウミアメンボ類は地球上で唯一、海面に生息する「海洋性昆虫」です。主に熱帯・亜熱帯に分布するグループですが、実は対馬の浅茅湾にも3種が生息しています。うち2種は絶滅危惧種に指定されており保全が急務となっています。本発表では、2024年までに明らかになった浅茅湾での生息状況や遺伝的独自性について報告します。浅茅湾に息づく小さな生物から、対馬の沿岸生態系への理解と愛着を深めるきっかけとなれば幸いです。	リンク
奨励賞	高校生からはじまる海の未来への願い	海ゴミ、陸ゴミを活用したキーホルダーや猪や鹿の革を活用したレザーキーホルダーの商品開発、竹歯ブラシ「Tsubrush」のパッケージデザインを通して、対馬の未来を担う私たちが、どう環境問題に向き合っていくべきかを考えました。ぜひ作品を手にとっていただき、私たちが暮らすこの大切な「対馬」の環境問題について共に考える1つのきっかけにしたいだけだと嬉しいです。	リンク
企画賞	文化芸術による長崎県離島の子ども達育成支援事業	対馬ほほえみ会と吹奏楽と長崎 OMURA 室内合奏団で、対馬において本物の文化芸術に触れる機会が著しく少ない子ども達に対し県内在住のプロ指導者の指導を受ける機会を提供している。参加の課題である移動問題を解決するため、地域の実情に合った子ども達の移動支援を行い、子ども達が都市部と同程度の経済的負担で、自分の興味関心がある分野について指導を受け自己肯定感の向上、人格形成に好影響をもたらすことを目指し活動。	リンク

		藻場増殖礁を核とした対馬市での藻場造成 豊かな森が豊かな海をつくる ヤマネコの住む森づくり	30年以上対馬の海で取り組んできた藻場造成も、海水温の上昇、海藻を餌とする藻食性魚類の増加といった環境変化により磯焼けが大きな問題となっています。そこでその課題に対応した藻場増殖礁の開発と、さらに一歩踏み込んだ環境負荷低減型の藻場増殖礁の研究開発について発表します。また、「豊かな海は豊かな森から」を合言葉にツシマヤマネコの住む森づくりの活動もご紹介します。	リンク
努力賞		干し芋でつなぐ段々畑の未来	長崎県の段々畑10選にも選ばれた青海の段々畑を復活させ、ヤマネコが暮らす環境づくりを進めます。段々畑の芋掘りも体験させていただき、「自分の故郷のことを大切にしたい。」というみのり農園様の想いを届けようと、干し芋のパッケージデザインに取り組みました。ぜひご注目ください。	リンク
		「市民」が考える地域の持続可能性～仁位地区地域づくり計画から	2025 年度対馬グローバル大学しまづくりゼミを受講し、人口減少、担い手不足に直面する地域の課題解決を「市民」と「公共」目線で考察。『「市民」が考える地域の持続可能性～仁位地区地域づくり計画から』をテーマとし 2015 年に豊玉町仁位地区の住民を中心に策定された「地域づくり計画」を振り返り、地域住民が主体となった地域の持続可能性について研究しています。	リンク
ブルーオーシャン・イニシアチブ賞		地域資源を活用した藻場再生の取り組み	対馬で進む磯焼けに対し、地域資源である汚泥堆肥とコーヒー麻袋を使った、低コストで簡単・環境にやさしい藻場再生を提案。専門的な知識や経験がなくても藻場再生に参加できる、誰でも関われる手法が特徴。(有)丸徳水産や(株)クリタス・市民ボランティアと協働し、2025 年に取り組みを開始。里山・人・海を循環する継続可能な地域モデルを目指す。対馬未来会議 2024 をきっかけに始まった取り組み。	リンク
サラヤ賞		高校生からはじまる海の未来への願い	海ゴミ、陸ゴミを活用したキーホルダーや猪や鹿の革を活用したレザーキーホルダーの商品開発、竹歯ブラシ「Tsubrush」のパッケージ	リンク

		<p>ジデザインを通して、対馬の未来を担う私たちが、どう環境問題に向き合っていくべきかを考えました。ぜひ作品を手にとっていただき、私たちが暮らすこの大切な「対馬」の環境問題について共に考える1つのきっかけにさせていただけると嬉しいです。</p>	
<p>レンゴ-賞</p>	<p>藻場増殖礁を核とした対馬市での藻場造成 豊かな森が豊かな海をつくる ヤマネコの住む森づくり</p>	<p>30年以上対馬の海で取り組んできた藻場造成も、海水温の上昇、海藻を餌とする藻食性魚類の増加といった環境変化により磯焼けが大きな問題となっています。そこでその課題に対応した藻場増殖礁の開発と、さらに一歩踏み込んだ環境負荷低減型の藻場増殖礁の研究開発について発表します。また、「豊かな海は豊かな森から」を合言葉にツシマヤマネコの住む森づくりの活動もご紹介します。</p>	<p>リンク</p>